

第5回

新入社員のグローバル意識調査

(2001年度から3年に1度実施)

・海外志向の強弱 はっきり分かれる

「どんな国・地域でも働きたい」が増加 約3割に

前回 27.0% → 今回 29.5%

働きたいと思う理由：日本ではできない経験を積みたい 74.0%

「海外で働きたいとは思わない」も増加

前回 49.0% → 今回 58.3%

働きたいと思わない理由：自分の語学力に自信がない 65.2%

・学校の英語教育「役に立たなかった」半数超

・学校教育での「グローバル人材育成」強化すべき 8割弱

2013年7月

学校法人 産業能率大学

お問い合わせ先

企画広報部企画広報課

電話：03-3704-9040

ファクス：03-3704-9404

学校法人産業能率大学（東京都世田谷区）は、今年度の新入社員の海外志向などを尋ね、「新入社員のグローバル意識調査」としてまとめました。このテーマに関する調査は、2001年度から3年に1度実施しており、今回が5回目となります。

調査は6月18日から6月24日までの7日間、インターネット調査会社を通じて、インターネットリサーチで実施。今年4月に新卒採用（高卒以上）された18歳から26歳までの新入社員を対象にしており、サンプル数は793です。なお、第3回までは、本学が開催する新入社員研修の参加者を対象にアンケート用紙を配布して実施していましたが、前回から調査方法を変更し、インターネットリサーチでその年度の新入社員（高卒以上の新卒入社）を対象に行っています。第1回から継続している質問もありますが、第3回以前と第4回以後で調査手法が異なることに留意してください。

全体総括

海外で働きたいと積極的に考える層と、働きたくないと考える消極的な層がはっきりしてきました。

グローバル化が進展し、とくに事業を展開する国が東南アジアを含め多岐にわたっています。数年前までいわば特定層に限られた話だった海外赴任も、徐々に、現実起こりうる問題として捉えざるを得ない状況になってきました。海外で働くという曖昧なイメージが具体化されるほど、この捉え方がはっきりと、ポジティブ・ネガティブのいずれかに分かれてきた印象です。

一見すると、海外で働きたくないと考える層の増加は、“内向き意識”の表れではないかと感じられますが、グローバル化がどれほど進展しても、日本人全員が物理的に「海外」に住んで働くわけではありません。「今後、日本企業はグローバル化を進めるべきだと思うか」という質問には、およそ75%が“進めるべきだ”と回答しているように、事業の海外展開の必要性は大半の新入社員が認識しています。海外で働きたいとは思わないとする新入社員たちは、グローバル化自体に異を唱えているのではなく、語学に対する不安を中心に、日本人ビジネスパーソン全員が海外で働くわけではない、生活レベルは落としたりたくない、あるいは海外に魅力を感じない（日本がいい）と現実的な捉え方をしているだけなのかもしれません。

むしろ、海外で働きたいと積極的に考える層が増加傾向にあり、3割弱に達していることの方が、昨今の新入社員を頼もしく感じる結果です。

目次

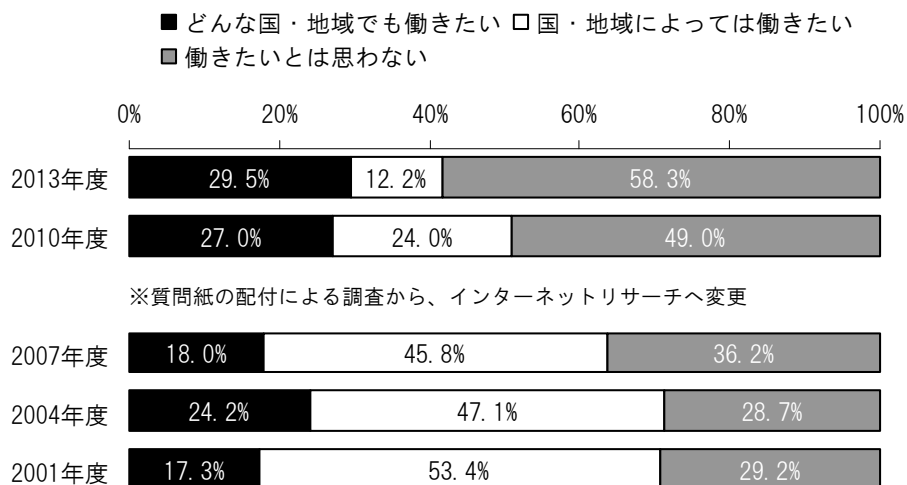
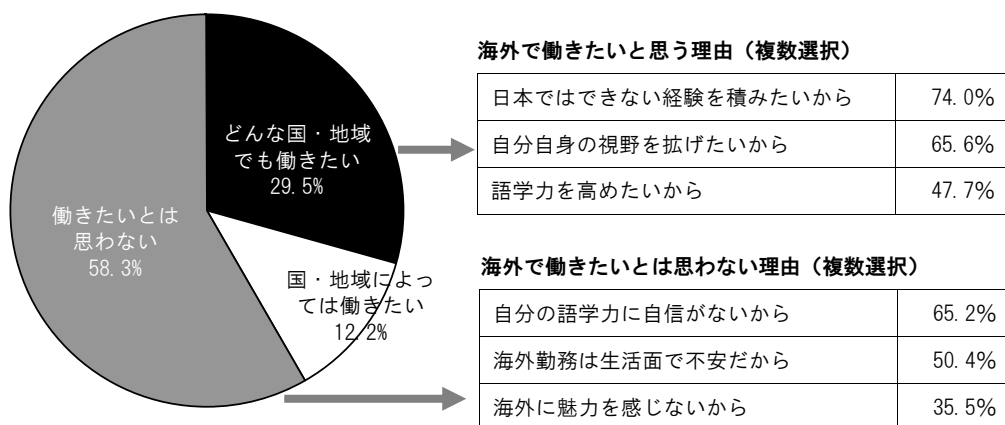
- ・ 注目データ 2
- ・ 調査概要 4
- ・ 調査結果 5
- ・ データ集 11

注目データ

海外志向の強弱 二極化が進む

海外で働きたいと思うかを、「どんな国・地域でも働きたい」「国・地域によっては働きたい」「働きたいとは思わない」の三択で尋ねたところ、「働きたいとは思わない」が6割近い58.3%に達しました。一方「どんな国・地域でも働きたい」が29.5%、「国・地域によっては働きたい」が12.2%で、41.7%が“海外で働きたい”と回答しています。“海外で働きたい”と答えた人に、複数選択でその理由を尋ねたところ、「日本ではできない経験を積みたいから」が74.0%で最多でした。働きたいとは思わない人にその理由を尋ねた結果では「自分の語学力に自信がないから」が最も高く65.2%でした。

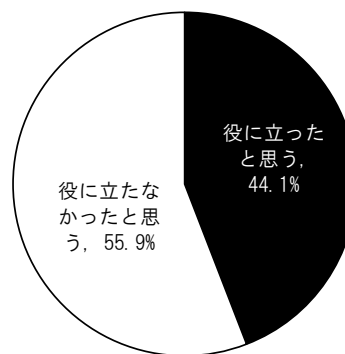
経年比較は、2007年度以前の調査と2010年度以降の調査で調査方法が異なることに留意が必要ですが、「どんな国・地域でも働きたい」と「働きたいとは思わない」がいずれも増加傾向にあることが分かります。



学校の英語教育「役に立たなかった」半数超

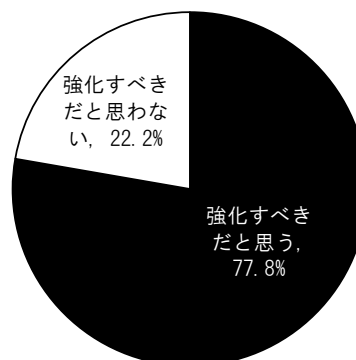
最終学歴までの学校における英語教育が役に立ったと思うかを尋ねたところ、「役に立たなかったと思う」が55.9%で半数を超えました。回答理由（自由記述）では、会話の能力が身に付かなかった、テストで点を取るための勉強だった、といった声が目立っていました。

「役に立ったと思う」は44.1%で、回答理由（自由記述）は、文法をしっかりと学ぶことができた、といった声が多く見られました。



学校教育の「グローバル人材育成」強化すべき 8割弱

文部科学省の「産学連携によるグローバル人材育成推進会議」におけるグローバル人材の定義を示したうえで、学校教育での「グローバル人材育成」の取り組みを強化すべきだと思うかを尋ねたところ、77.8%が「強化すべきだと思う」と回答しました。回答理由（自由記述）では、グローバル化の進展が進んでいるから、日本の良さを広めることにつながるから、といった声が目立ちました。



調査概要

1. 調査対象 2013年度に新卒入社した新入社員（高卒以上の学歴で18歳～26歳）
2. 調査時期 2013年6月18日～24日
3. 調査方法 インターネットリサーチ
4. サンプル数 793（男性380人・47.9%、女性413人・52.1%）
5. 回答者属性

・年齢	18～20歳	64人（8.1%）
	21～23歳	474人（59.8%）
	24～26歳	255人（32.1%）
・居住地	北海道	20人（2.5%）
	東北	28人（3.5%）
	関東	411人（51.8%）
	中部	112人（14.1%）
	近畿	138人（17.4%）
	中国	31人（3.9%）
	四国	11人（1.4%）
	九州・沖縄	42人（5.3%）
・従業員規模	100人未満	211人（26.6%）
	100人以上500人未満	212人（26.7%）
	500人以上1,000人未満	115人（14.5%）
	1,000人以上3,000人未満	105人（13.2%）
	3,000人以上10,000人未満	75人（9.5%）
	10,000人以上	75人（9.5%）
・上場区分	東証一部上場	254人（32.0%）
	東証二部上場	40人（5.0%）
	その他上場	78人（9.8%）
	非上場	421人（53.1%）
・勤務先の現状		

	積極的に取り組んでいる	どちらかといえば積極的に取り組んでいる	どちらかといえば積極的に取り組んでいない	積極的に取り組んでいない	分からない
事業の海外展開	20.6%	17.5%	9.5%	31.7%	20.8%
外国人の人材の活用	13.0%	15.9%	13.2%	35.3%	22.6%
語学教育	9.3%	15.6%	14.5%	39.8%	20.7%
海外赴任時の教育	7.4%	12.7%	11.2%	41.9%	26.7%
海外赴任した人に対する支援	8.2%	15.8%	9.8%	38.3%	27.9%

・英語のレベル	英語はまったくできない	221人（27.9%）
	簡単な読み書きや会話ができる	342人（43.1%）
	相手の意見を理解し、自分の意志を伝えることができる	190人（24.0%）
	ビジネスにおける商談・交渉ができる	40人（5.0%）
・海外旅行経験	あり	520人（65.6%）
	内訳	
	1回	136人（26.2%）
	2回	97人（18.7%）
	3回	79人（15.2%）
	4回以上	208人（40.0%）
	なし	273人（34.4%）

第5回

新入社員のグローバル意識調査

調査結果

海外留学

海外留学の経験あり 2割弱

海外留学の経験の有無を尋ねたところ、17.3%が「ある」としています。

性別にみると、海外留学の経験が「ある」のは、男性は13.4%、女性は20.8%でした。女性の方が7割程度高い結果です。

勤務先の海外展開の有無別では、当然ではありますが、海外展開している企業に勤務している新入社員の方が留学経験者が多い結果です。

経年でみると、前回調査（2010年度）は「留学経験あり」が19.7%でしたが、およそ2割減少しています。

海外留学の期間は「半年未満」が半数超

海外留学の期間については、「半年未満」が半数を超えて54.0%、「半年～1年未満」が27.7%、「1年～3年未満」が13.1%、「3年以上」が5.1%という結果でした。

経年でみると、「半年未満」「3年以上」はいずれも前回調査より減っていますが、「半年～1年未満」「1年～3年未満」は前回調査より増えています。

語学に対する意識

語学を勉強したいと思わない 前回より増加

語学を勉強したいと思うかを尋ねたところ、「すでに勉強している」は15.5%でした。前回調査よりも4割程度減少しています。一方で、「勉強したいとは思わない」は26.6%で、前回調査の18.5%から8割程度増加しました。

英語習得のレベル別にみると、英語が全くできない層は、半数以上の53.4%が「勉強したいとは思わない」と回答しています。

勉強している／勉強したい言語

すでに勉強していると回答した人に対して、勉強している言語を複数回答で尋ねたところ、「英語」が97.6%でほぼ100%でした。「中国語」が14.6%でこれに次いでいます。

費用負担の有無にかかわらず“勉強したい”と回答した人に、勉強したいと思う言語を複数回答で尋ねた結果では、「英語」が96.1%、「中国語」が21.8%、「フランス語」が16.1%でした。

海外志向

海外志向の強弱の二極化が進む

海外で働きたいと思うかを、「どんな国・地域でも働きたい」「国・地域によっては働きたい」「働きたいとは思わない」の三択で尋ねたところ、「働きたいとは思わない」が58.3%で6割近くに達しています。「どんな国・地域でも働きたい」は3割弱の29.5%、「国・地域によっては働きたい」は12.2%でした。

性別にみると、「どんな国・地域でも働きたい」は、男性は3割を超えて33.9%、女性は25.4%で、8.5%の開きがあります。

海外留学経験の有無別では、留学経験がある層は「どんな国・地域でも働きたい」が半数を超えて56.9%に達しており、「働きたいとは思わない」（21.2%）は、「国・地域によっては働きたい」（21.9%）を下回っています。一方で、海外留学経験がない層は、「働きたいとは思わない」が3分の2を占めています。

英語習得のレベル別にみても、英語をより習得できていると答えた層ほど、「どんな国・地域でも働きたい」の割合が高くなっています。

勤務先の海外展開の有無別にみると、海外展開している層は「どんな国・地域でも働きたい」が45.0%で、「働きたいとは思わない」の38.7%を上回っています。

経年では、第1回から第3回までの調査方法と、第4回以降の調査方法が異なるため、比較に留意が必要ですが、海外志向が強い層も弱い層もいずれも増加傾向がみられます。調査方法が同じ前回との比較に限定しても、海外志向の強弱がはっきりしてきています。

海外で“働きたい”と答えた人に対して、その理由を尋ねた結果では、「日本ではできない経験を積みたいから」が74.0%でトップ。「自分自身の視野を広げたいから」が65.6%で次いでいます。

海外で「働きたいとは思わない」と回答した人に、その理由を複数回答で尋ねた結果では、「自分の語学力に自身がないから」が65.2%でトップ。「海外勤務は生活面で不安だから」が50.4%でこれに次いでいます。

グローバル化がいよいよ本格化してきており、新たな事業展開先もアジアが多数を占めるようになってきています。2000年代初頭には、多くの新入社員にとって、海外赴任はそこまで具体的にイメージものではなかった可能性があります。たとえば、第1回調査では「国・地域によっては働きたい」が半数超の53.4%ありました。海外赴任がやや“縁遠い”ものだったため、この曖昧な回答が高かったとも考えることができます。

ところが、ここ数年で、グローバル化が一気に進み、アジアを中心に事業展開が増えています。海外赴任が現実的な問題として認識されるようになってきたことから、これをチャンスとして捉える層と、避けようとする層がはっきりしてきたのかもしれませんが。赴任先についても、場合に

よって日本国内より生活レベルが落ちると感じる人もいるエリアでの勤務の可能性が膨らんでいくことで、海外赴任に抵抗を感じる人が一定割合で増えている可能性が考えられます。こうした認識の変化が、海外志向の強弱がはっきりしてきた背景のひとつとして考えられます。

途上国勤務はやや抵抗あり

海外で“働きたい”と答えた人に対しては、さらに、大きく「先進国」「新興国」「途上国」に分けた場合、どの程度働いてみたいと思うかを尋ねました。

「先進国」では、96.0%が“働いてみたい”（働いてみたい+どちらかといえば働いてみたい）と回答しています。「新興国」では“働いてみたい”が「先進国」よりも下がり84.3%。「途上国」になると、“働いてみたい”は51.7%に下がります。途上国となると、抵抗を感じる人が一定割合いそうです。

海外赴任の期間は3年程度が目安

海外で“働きたい”と答えた人に対して、海外で勤務するとしたらどの程度の期間が適当だと思うかを尋ねたところ、「1年以上3年未満」がもっとも多く50.8%でした。「3年以上5年未満」が25.7%で、「1年未満」が14.2%で続いています。3年前後がひとつの目安だと考えている人が多いそうです。

海外勤務の不安は「治安」「言葉」

海外で“働きたい”と答えた人に対して、海外勤務で不安なことがあるかを尋ねたところ、「治安」が75.5%でもっとも高く、「言葉」が僅差で75.2%でした。「食事」（60.3%）、「住環境」（49.7%）が続いています。

クロス集計の結果をみると、「言葉」は、当然ではありますが、留学経験の有無や英語の習得レベルに応じて、不安視する割合が変化しています。とくに、留学経験がある層は、ない層よりも、総じて割合が低い傾向をみることができます。海外で実際に生活をした経験が、抵抗をなくしているものと思われます。

企業のグローバル化

日本企業はグローバル化を進めるべき 8割弱

日本企業が今後、グローバル化（ここでは海外進出）を一層進めるべきだと思うかを尋ねたところ、“そう思う”（そう思う＋どちらかといえばそう思う）が76.5%で、大半が賛成でした。

留学経験の有無や英語の習得状況、勤務先の海外展開の有無によって「そう思う」の割合が大きく異なります。

回答理由を自由記述で尋ねています。進出を進めるべきだと思う理由では、国内の市場縮小に伴う産業衰退の可能性や、日本の良さを知って欲しい、海外のよいところを取り入れたい、といった声が目立ちました。

進出を進めるべきだと思わないという回答理由では、日本の良さが失われる、国内産業の立て直しを優先すべき、といった声が目立っていました。

社員の海外赴任の積極化に有効そうな社内施策

勤務先でどのような施策があると、社員が海外赴任に現在よりも積極的になると思うかを尋ねたところ、「語学研修」が35.1%で最多、これに「TOEICの点数など、社員に一定レベルの英語の習得を義務づける」（25.6%）と、語学関連が上位に来ています。これに「社員旅行で海外に行く」（25.0%）、「全社員に一定期間の海外派遣を義務づける」（22.7%）が続いています。

もし社長が外国人になったら・・・

経営トップに外国人が就いた、上司に外国人が着任した、外国人が自分の同僚になった…こうした状況が勤務先で生じた場合に、抵抗をどの程度感じるかを尋ねました。

「経営トップに外国人が就いた」では、“抵抗感がある”（抵抗感がある＋どちらかといえば抵抗感がある）は48.8%で半数弱でした。同じように、「上司に外国人が着任した」も“抵抗感がある”は49.2%で半数弱でした。「外国人が自分の部下になった」では、“抵抗感がある”は40.4%、「外国人が自分の同僚になった」は26.6%が“抵抗感がある”、「取引先の相手が外国人だった」はこれが38.8%でした。

学校教育でのグローバル人材育成

学校の英語教育「役に立たなかった」半数超

学校での英語教育が役に立ったと思うかを尋ねたところ、「役に立ったと思う」は44.1%で半数を下回りました。

性別による割合の上下はあまり目立ちませんが、留学経験の有無や英語の習得レベルでは、割合に差がみられます。留学経験がある層では68.6%が「役に立ったと思う」と回答。英語の習得レベルで、英語がまったくできない層では「役に立ったと思う」が17.6%にとどまるのに対して、意思疎通ができるレベルになると6割から7割が「役に立ったと思う」としています。

学校での英語教育に関する評価の回答理由を自由記述で尋ねたところ、「役に立ったと思う」では、基本的なことを学べた、文法をしっかりと学ぶことができた、といった声が目立っています。一方、「役に立たなかったと思う」では、会話の能力が身に付かなかった、テストで点を取るための勉強だった、といった声が目立っていました。

学校教育での「グローバル人材育成」は強化すべき 8割弱

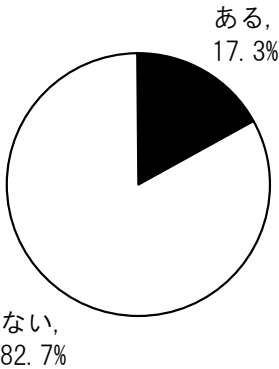
文部科学省によるグローバル人材育成の定義を示したうえで、学校教育で「グローバル人材育成」の取り組みを強化すべきだと思うかを尋ねたところ、「強化すべきだと思う」が77.8%で大半を占めました。

回答理由（自由記述）では、強化すべきだとする意見では、グローバル化の進展が進んでいるから、日本の良さを広める・理解することにつながる、といった声が目立ちました。一方、強化すべきだと思わないとする意見では、強制的に教育すべきことではない、まずは日本や日本語について理解を深めるべき、といった回答が多く見られました。

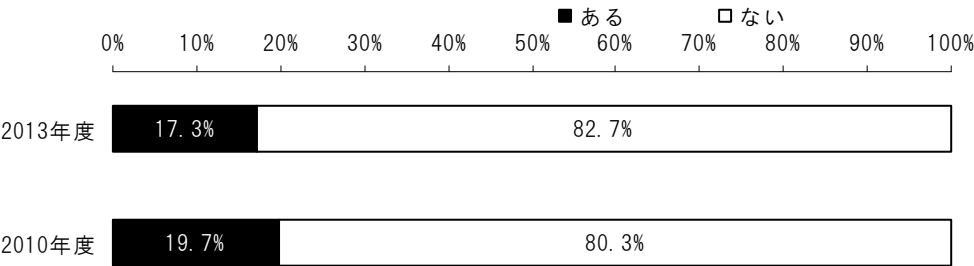
第5回
新入社員のグローバル意識調査

データ集

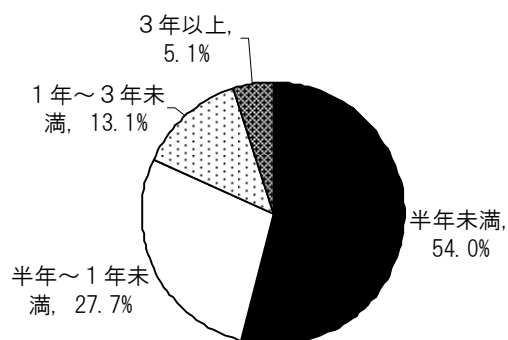
問１．あなたは海外留学の経験がありますか。



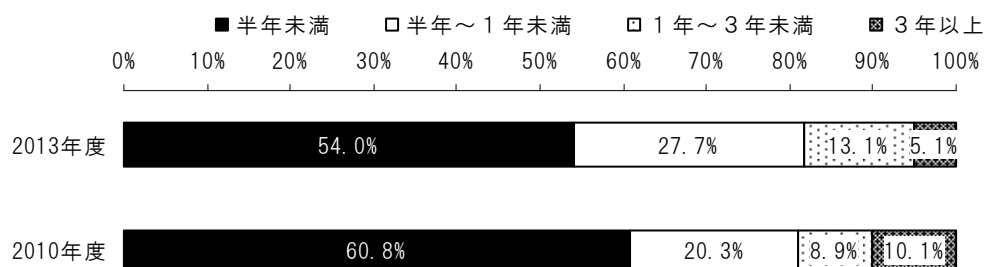
			ある	ない	合計
全体		N	137	656	793
		%	17.3%	82.7%	100.0%
性別	男性	N	51	329	380
		%	13.4%	86.6%	100.0%
	女性	N	86	327	413
		%	20.8%	79.2%	100.0%
英語習得のレベル	英語は全くできない	N	11	210	221
		%	5.0%	95.0%	100.0%
	簡単な読み書きや会話ができる	N	36	306	342
		%	10.5%	89.5%	100.0%
	相手の意見を理解し、自分の意志を伝えることができる	N	72	118	190
		%	37.9%	62.1%	100.0%
勤務先の事業の海外展開	ビジネスにおける商談・交渉ができる	N	18	22	40
		%	45.0%	55.0%	100.0%
	取り組んでいる（計）	N	79	223	302
		%	26.2%	73.8%	100.0%
	取り組んでいない（計）	N	46	280	326
		%	14.1%	85.9%	100.0%



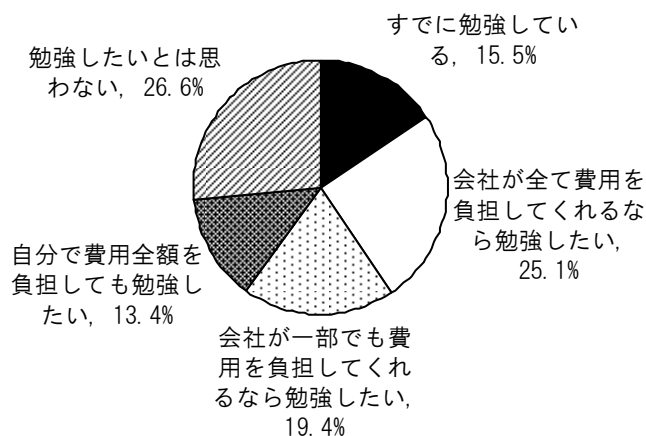
問2. (海外留学の経験があると答えた人) 海外留学の期間はどの程度ですか。
(n = 137)



			半年未満	半年～1年未満	1年～3年未満	3年以上	合計
合計		N	74	38	18	7	137
		%	54.0%	27.7%	13.1%	5.1%	100.0%
性別	男性	N	23	19	4	5	51
		%	45.1%	37.3%	7.8%	9.8%	100.0%
	女性	N	51	19	14	2	86
		%	59.3%	22.1%	16.3%	2.3%	100.0%
英語習得のレベル	英語は全くできない	N	5	4	2	0	11
		%	45.5%	36.4%	18.2%	0.0%	100.0%
	簡単な読み書きや会話ができる	N	21	9	4	2	36
		%	58.3%	25.0%	11.1%	5.6%	100.0%
	相手の意見を理解し、自分の意志を伝えることができる	N	42	23	7	0	72
		%	58.3%	31.9%	9.7%	0.0%	100.0%
勤務先の事業の海外展開	ビジネスにおける商談・交渉ができる	N	6	2	5	5	18
		%	33.3%	11.1%	27.8%	27.8%	100.0%
	取り組んでいる (計)	N	40	23	10	6	79
		%	50.6%	29.1%	12.7%	7.6%	100.0%
	取り組んでいない (計)	N	29	12	4	1	46
		%	63.0%	26.1%	8.7%	2.2%	100.0%



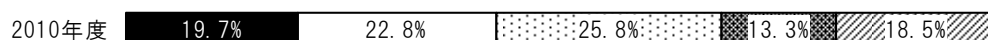
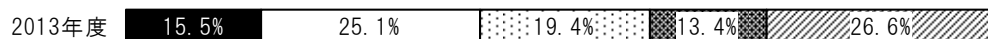
問3. あなたは語学を勉強したいと思いますか。近いものをひとつ選んでください。



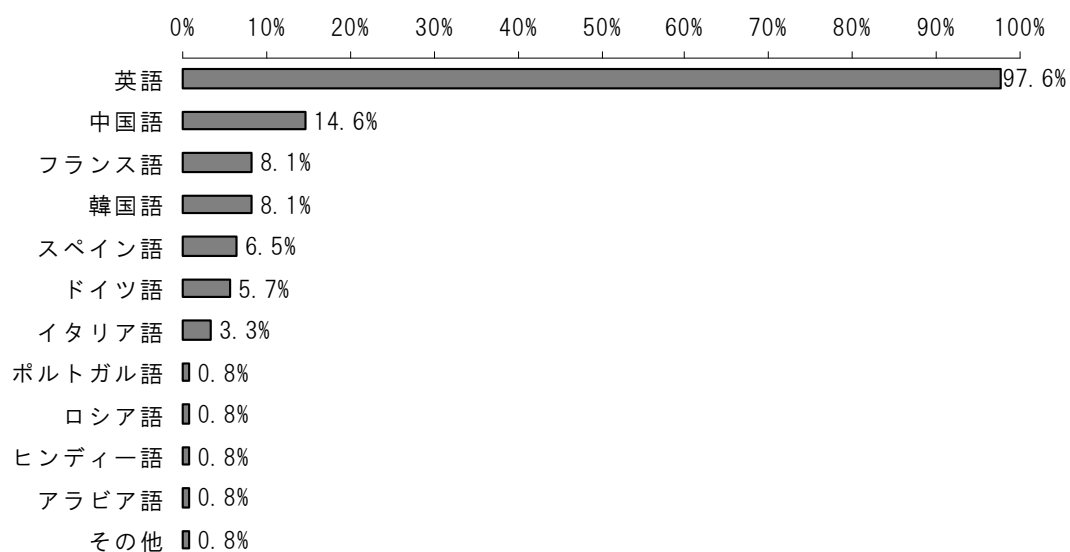
			すでに勉強している	会社が全て費用を負担してくれるなら勉強したい	会社が一部でも費用を負担してくれるなら勉強したい	自分で費用全額を負担しても勉強したい	勉強したいとは思わない	合計
合計		N	123	199	154	106	211	793
		%	15.5%	25.1%	19.4%	13.4%	26.6%	100.0%
性別	男性	N	54	102	77	43	104	380
		%	14.2%	26.8%	20.3%	11.3%	27.4%	100.0%
	女性	N	69	97	77	63	107	413
		%	16.7%	23.5%	18.6%	15.3%	25.9%	100.0%
海外留学の経験	ある	N	51	30	27	24	5	137
		%	37.2%	21.9%	19.7%	17.5%	3.6%	100.0%
	ない	N	72	169	127	82	206	656
		%	11.0%	25.8%	19.4%	12.5%	31.4%	100.0%
英語習得のレベル	英語は全くできない	N	12	47	26	18	118	221
		%	5.4%	21.3%	11.8%	8.1%	53.4%	100.0%
	簡単な読み書きや会話ができる	N	33	100	76	58	75	342
		%	9.6%	29.2%	22.2%	17.0%	21.9%	100.0%
	相手の意見を理解し、自分の意見を伝えることができる	N	57	48	45	27	13	190
		%	30.0%	25.3%	23.7%	14.2%	6.8%	100.0%
勤務先の事業の海外展開	取り組んでいる (計)	N	74	87	80	37	24	302
		%	24.5%	28.8%	26.5%	12.3%	7.9%	100.0%
	取り組んでいない (計)	N	40	66	50	56	114	326
		%	12.3%	20.2%	15.3%	17.2%	35.0%	100.0%

- すでに勉強している
- 会社が全て費用を負担してくれるなら勉強したい
- 会社が一部でも費用を負担してくれるなら勉強したい
- 自分で費用全額を負担しても勉強したい
- 勉強したいとは思わない

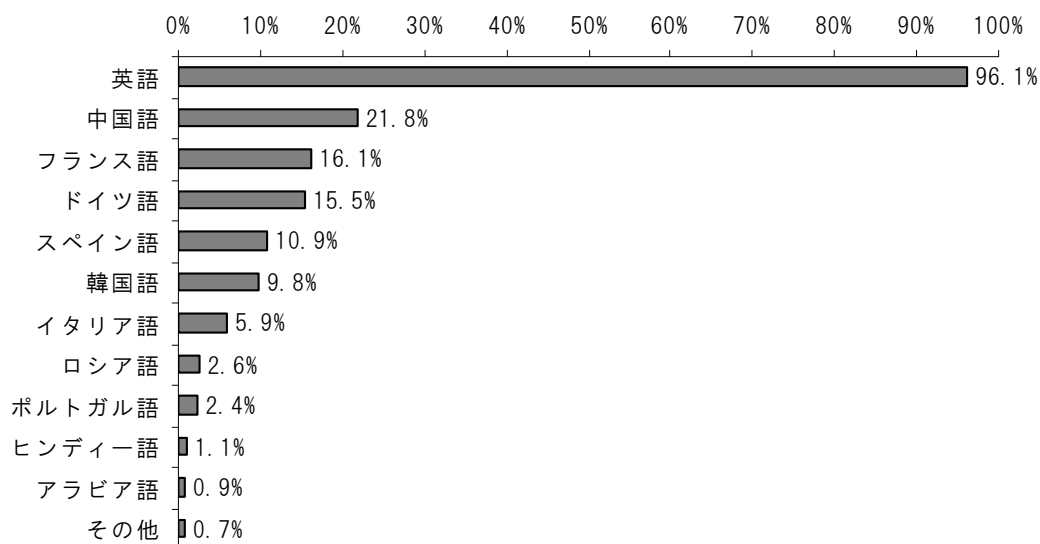
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



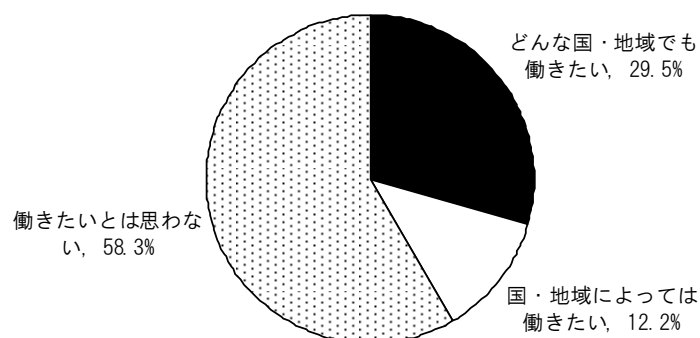
問4.（すでに勉強している人が対象）勉強しているのは何語ですか。当てはまるものをいくつでも選んでください。（n=123）



問5.（“勉強したい”と回答した人が対象）勉強したいのは何語ですか。当てはまるものをいくつでも選んでください。（N=459）



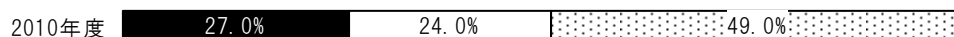
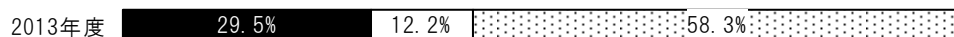
問6. あなたはこれから海外で働きたいと思いますか。近いものをひとつ選んでください。



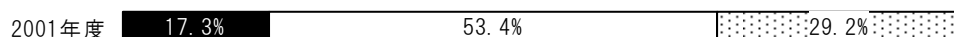
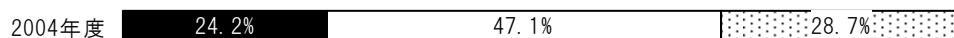
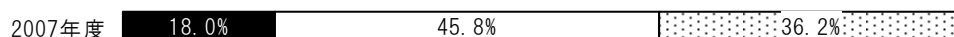
			どんな国・地域でも働きたい	国・地域によっては働きたい	働きたいとは思わない	合計
合計		N	234	97	462	793
		%	29.5%	12.2%	58.3%	100.0%
性別	男性	N	129	42	209	380
		%	33.9%	11.1%	55.0%	100.0%
	女性	N	105	55	253	413
		%	25.4%	13.3%	61.3%	100.0%
海外留学の経験	ある	N	78	30	29	137
		%	56.9%	21.9%	21.2%	100.0%
	ない	N	156	67	433	656
		%	23.8%	10.2%	66.0%	100.0%
英語習得のレベル	英語は全くできない	N	39	10	172	221
		%	17.6%	4.5%	77.8%	100.0%
	簡単な読み書きや会話ができる	N	90	43	209	342
		%	26.3%	12.6%	61.1%	100.0%
	相手の意見を理解し、自分の意志を伝えることができる	N	80	42	68	190
		%	42.1%	22.1%	35.8%	100.0%
勤務先の事業の海外展開	ビジネスにおける商談・交渉ができる	N	25	2	13	40
		%	62.5%	5.0%	32.5%	100.0%
	取り組んでいる(計)	N	136	49	117	302
		%	45.0%	16.2%	38.7%	100.0%
	取り組んでいない(計)	N	66	45	215	326
		%	20.2%	13.8%	66.0%	100.0%

■ どんな国・地域でも働きたい □ 国・地域によっては働きたい □ 働きたいとは思わない

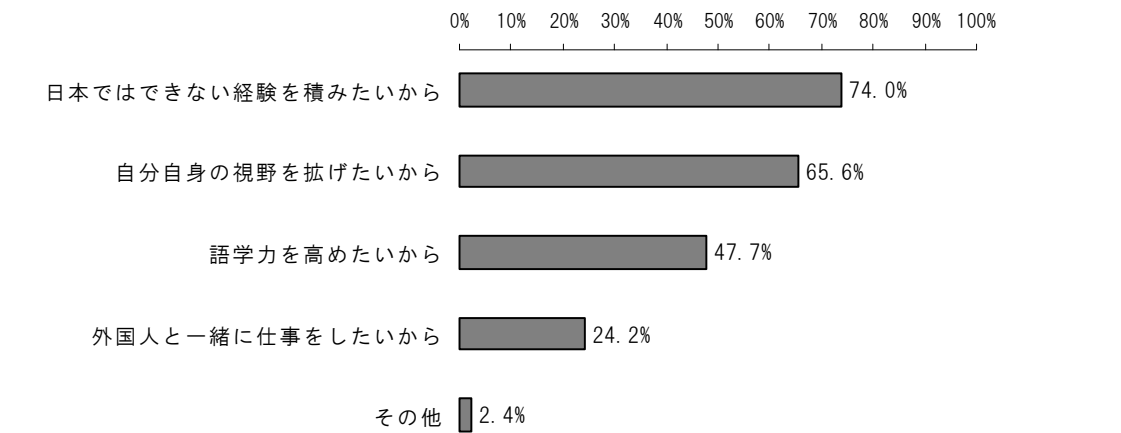
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



※質問紙配付からネットリサーチに変更

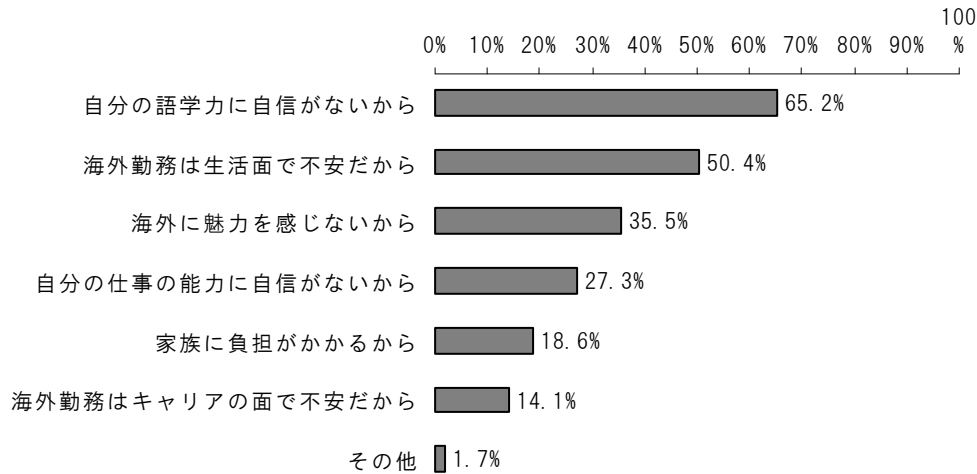


問7.（“海外で働きたい”と答えた人が対象）海外で働きたい理由として、当てはまるものを選んでください。（n＝331）



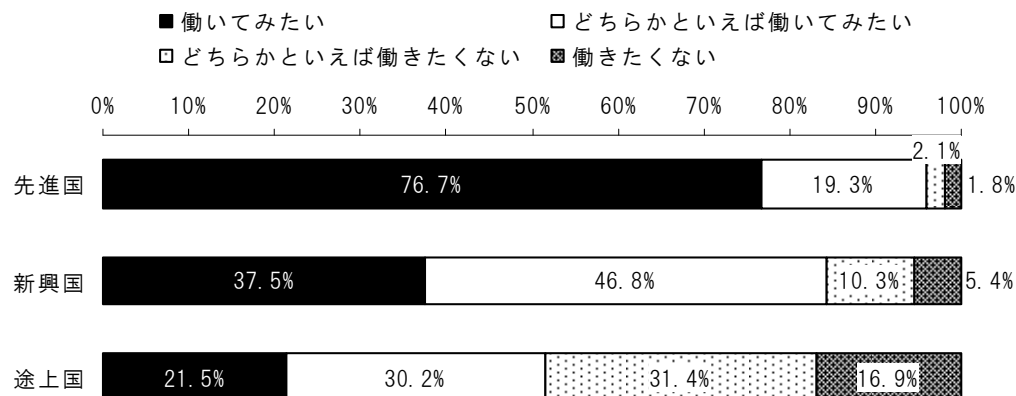
			日本ではで きない経験 を積みたい から	自分自身 の視野を 広げたい から	語学力を 高めたい から	外国人と 一緒に仕 事をした いから	その他	合計
合計		N	245	217	158	80	8	331
		%	74.0%	65.6%	47.7%	24.2%	2.4%	100.0%
性別	男性	N	129	113	72	32	4	171
		%	75.4%	66.1%	42.1%	18.7%	2.3%	100.0%
	女性	N	116	104	86	48	4	160
		%	72.5%	65.0%	53.8%	30.0%	2.5%	100.0%
海外留学の 経験	ある	N	91	75	67	42	4	108
		%	84.3%	69.4%	62.0%	38.9%	3.7%	100.0%
	ない	N	154	142	91	38	4	223
		%	69.1%	63.7%	40.8%	17.0%	1.8%	100.0%
英語習得の レベル	英語は全くできない	N	37	26	24	7	0	49
		%	75.5%	53.1%	49.0%	14.3%	0.0%	100.0%
	簡単な読み書きや会話 ができる	N	93	80	60	28	3	133
		%	69.9%	60.2%	45.1%	21.1%	2.3%	100.0%
	相手の意見を理解し、自分の意 志を伝えることができる	N	94	93	62	33	3	122
		%	77.0%	76.2%	50.8%	27.0%	2.5%	100.0%
勤務先の事 業の海外展 開	ビジネスにおける商 談・交渉ができる	N	21	18	12	12	2	27
		%	77.8%	66.7%	44.4%	44.4%	7.4%	100.0%
	取り組んでいる（計）	N	147	122	85	47	2	185
		%	79.5%	65.9%	45.9%	25.4%	1.1%	100.0%
	取り組んでいない（計）	N	79	78	53	29	6	111
		%	71.2%	70.3%	47.7%	26.1%	5.4%	100.0%

問8. (海外で働きたいとは思わないと答えた人が対象) 海外で働きたくない理由として、当てはまるものを選んでください。(n=462)



			自分の語学力に自信がないから	海外勤務は生活面で不安だから	海外に魅力を感じないから	自分の仕事の能力に自信がないから	家族に負担がかかるから	海外勤務はキャリアの面で不安だから	その他	合計
合計		N	301	233	164	126	86	65	8	462
		%	65.2%	50.4%	35.5%	27.3%	18.6%	14.1%	1.7%	100.0%
性別	男性	N	127	95	79	51	39	29	4	209
		%	60.8%	45.5%	37.8%	24.4%	18.7%	13.9%	1.9%	100.0%
	女性	N	174	138	85	75	47	36	4	253
		%	68.8%	54.5%	33.6%	29.6%	18.6%	14.2%	1.6%	100.0%
海外留学の経験	ある	N	13	16	8	7	6	6	1	29
		%	44.8%	55.2%	27.6%	24.1%	20.7%	20.7%	3.4%	100.0%
	ない	N	288	217	156	119	80	59	7	433
		%	66.5%	50.1%	36.0%	27.5%	18.5%	13.6%	1.6%	100.0%
英語習得のレベル	英語は全くできない	N	124	73	52	51	36	27	1	172
		%	72.1%	42.4%	30.2%	29.7%	20.9%	15.7%	0.6%	100.0%
	簡単な読み書きや会話ができる	N	141	117	82	58	35	27	5	209
		%	67.5%	56.0%	39.2%	27.8%	16.7%	12.9%	2.4%	100.0%
	相手の意見を理解し、自分の意志を伝えることができる	N	33	37	26	17	13	8	2	68
		%	48.5%	54.4%	38.2%	25.0%	19.1%	11.8%	2.9%	100.0%
勤務先の事業の海外展開	取り組んでいる(計)	N	3	6	4	0	2	3	0	13
		%	23.1%	46.2%	30.8%	0.0%	15.4%	23.1%	0.0%	100.0%
	取り組んでいない(計)	N	76	67	43	33	26	16	3	117
		%	65.0%	57.3%	36.8%	28.2%	22.2%	13.7%	2.6%	100.0%
	取り組んでいない(計)	N	134	112	78	59	38	27	3	215
		%	62.3%	52.1%	36.3%	27.4%	17.7%	12.6%	1.4%	100.0%

問9. (海外で“働きたい”と答えた人が対象) 大きく「先進国」「新興国」「途上国」に分けた場合に、あなたはそれぞれの程度働いてみたいと思いますか。(N=331)



■ 先進国

			働いてみたい	どちらかとい えば働いて みたい	どちらかとい えば働きた くない	働きたくない	合計
合計		N	254	64	7	6	331
		%	76.7%	19.3%	2.1%	1.8%	100.0%
性別	男性	N	135	33	2	1	171
		%	78.9%	19.3%	1.2%	0.6%	100.0%
	女性	N	119	31	5	5	160
		%	74.4%	19.4%	3.1%	3.1%	100.0%
海外留学の 経験	ある	N	89	16	2	1	108
		%	82.4%	14.8%	1.9%	0.9%	100.0%
	ない	N	165	48	5	5	223
		%	74.0%	21.5%	2.2%	2.2%	100.0%
英語習得の レベル	英語は全くできない	N	30	13	3	3	49
		%	61.2%	26.5%	6.1%	6.1%	100.0%
	簡単な読み書きや会話 ができる	N	99	31	2	1	133
		%	74.4%	23.3%	1.5%	0.8%	100.0%
	相手の意見を理解し、自分の意 志を伝えることができる	N	100	18	2	2	122
		%	82.0%	14.8%	1.6%	1.6%	100.0%
勤務先の事業の海外展 開	ビジネスにおける商 談・交渉ができる	N	25	2	0	0	27
		%	92.6%	7.4%	0.0%	0.0%	100.0%
	取り組んでいる(計)	N	146	38	1	0	185
		%	78.9%	20.5%	0.5%	0.0%	100.0%
	取り組んでいない(計)	N	89	19	3	0	111
		%	80.2%	17.1%	2.7%	0.0%	100.0%

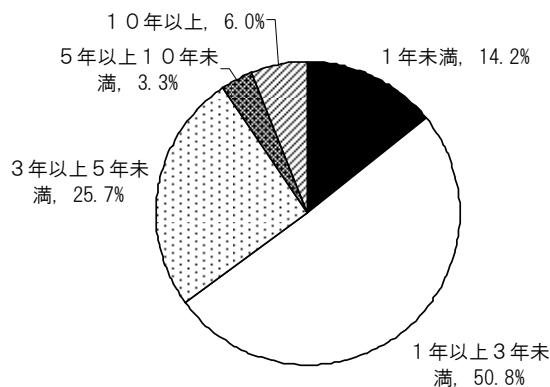
■新興国

			働いてみたい	どちらかといえ ば働いてみたい	どちらかといえ ば働きたくない	働きたくない	合計
合計		N	124	155	34	18	331
		%	37.5%	46.8%	10.3%	5.4%	100.0%
性別	男性	N	60	87	15	9	171
		%	35.1%	50.9%	8.8%	5.3%	100.0%
	女性	N	64	68	19	9	160
		%	40.0%	42.5%	11.9%	5.6%	100.0%
海外留学の経験	ある	N	50	46	6	6	108
		%	46.3%	42.6%	5.6%	5.6%	100.0%
	ない	N	74	109	28	12	223
		%	33.2%	48.9%	12.6%	5.4%	100.0%
英語習得のレベル	英語は全くできない	N	22	19	5	3	49
		%	44.9%	38.8%	10.2%	6.1%	100.0%
	簡単な読み書きや会話ができる	N	43	65	19	6	133
		%	32.3%	48.9%	14.3%	4.5%	100.0%
	相手の意見を理解し、自分の意志を伝えることができる	N	45	61	8	8	122
		%	36.9%	50.0%	6.6%	6.6%	100.0%
	ビジネスにおける商談・交渉ができる	N	14	10	2	1	27
		%	51.9%	37.0%	7.4%	3.7%	100.0%
勤務先の事業の海外展開	取り組んでいる（計）	N	71	93	13	8	185
		%	38.4%	50.3%	7.0%	4.3%	100.0%
	取り組んでいない（計）	N	39	51	17	4	111
		%	35.1%	45.9%	15.3%	3.6%	100.0%

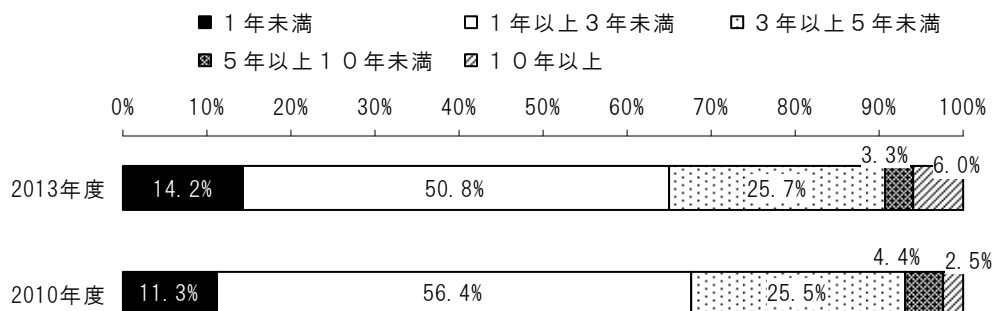
■途上国

			働いてみたい	どちらかといえ ば働いてみたい	どちらかといえ ば働きたくない	働きたくない	合計
合計		N	71	100	104	56	331
		%	21.5%	30.2%	31.4%	16.9%	100.0%
性別	男性	N	37	52	53	29	171
		%	21.6%	30.4%	31.0%	17.0%	100.0%
	女性	N	34	48	51	27	160
		%	21.3%	30.0%	31.9%	16.9%	100.0%
海外留学の経験	ある	N	30	36	26	16	108
		%	27.8%	33.3%	24.1%	14.8%	100.0%
	ない	N	41	64	78	40	223
		%	18.4%	28.7%	35.0%	17.9%	100.0%
英語習得のレベル	英語は全くできない	N	12	16	15	6	49
		%	24.5%	32.7%	30.6%	12.2%	100.0%
	簡単な読み書きや会話ができる	N	24	37	48	24	133
		%	18.0%	27.8%	36.1%	18.0%	100.0%
	相手の意見を理解し、自分の意志を伝えることができる	N	26	40	32	24	122
		%	21.3%	32.8%	26.2%	19.7%	100.0%
	ビジネスにおける商談・交渉ができる	N	9	7	9	2	27
		%	33.3%	25.9%	33.3%	7.4%	100.0%
勤務先の事業の海外展開	取り組んでいる（計）	N	42	64	52	27	185
		%	22.7%	34.6%	28.1%	14.6%	100.0%
	取り組んでいない（計）	N	20	29	44	18	111
		%	18.0%	26.1%	39.6%	16.2%	100.0%

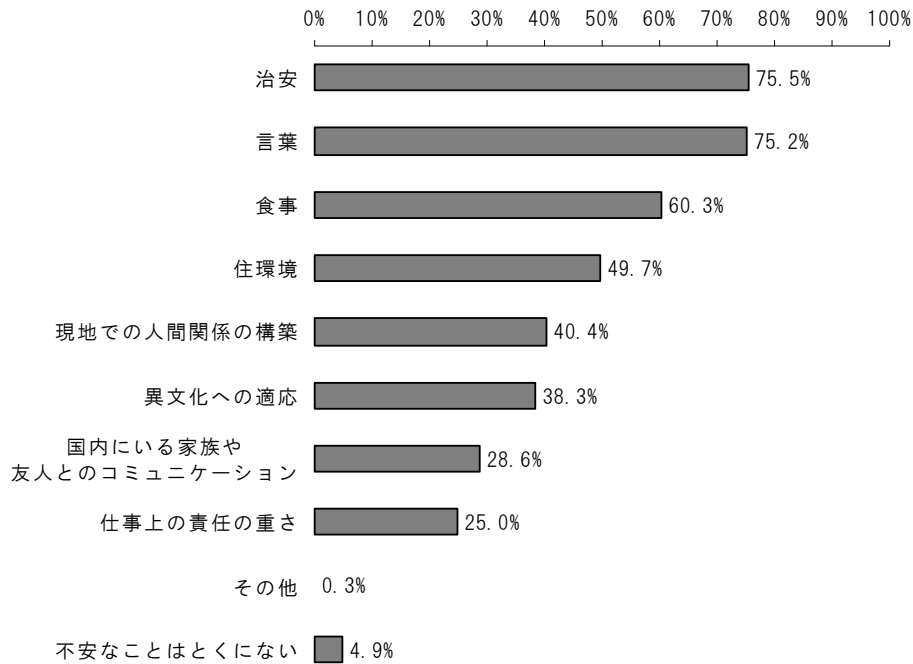
問10.（海外で“働きたい”と答えた人が対象）海外で勤務をするとしたらどの程度の期間が適当だと思いますか。（n＝331）



			1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上	合計
合計		N	47	168	85	11	20	331
		%	14.2%	50.8%	25.7%	3.3%	6.0%	100.0%
性別	男性	N	27	79	46	7	12	171
		%	15.8%	46.2%	26.9%	4.1%	7.0%	100.0%
	女性	N	20	89	39	4	8	160
		%	12.5%	55.6%	24.4%	2.5%	5.0%	100.0%
海外留学の経験	ある	N	7	54	33	7	7	108
		%	6.5%	50.0%	30.6%	6.5%	6.5%	100.0%
	ない	N	40	114	52	4	13	223
		%	17.9%	51.1%	23.3%	1.8%	5.8%	100.0%
英語習得のレベル	英語は全くできない	N	10	24	9	2	4	49
		%	20.4%	49.0%	18.4%	4.1%	8.2%	100.0%
	簡単な読み書きや会話ができる	N	31	59	30	4	9	133
		%	23.3%	44.4%	22.6%	3.0%	6.8%	100.0%
	相手の意見を理解し、自分の意志を伝えることができる	N	6	75	35	3	3	122
		%	4.9%	61.5%	28.7%	2.5%	2.5%	100.0%
	ビジネスにおける商談・交渉ができる	N	0	10	11	2	4	27
		%	0.0%	37.0%	40.7%	7.4%	14.8%	100.0%
勤務先の事業の海外展開	取り組んでいる（計）	N	22	99	53	4	7	185
		%	11.9%	53.5%	28.6%	2.2%	3.8%	100.0%
	取り組んでいない（計）	N	17	54	25	5	10	111
		%	15.3%	48.6%	22.5%	4.5%	9.0%	100.0%



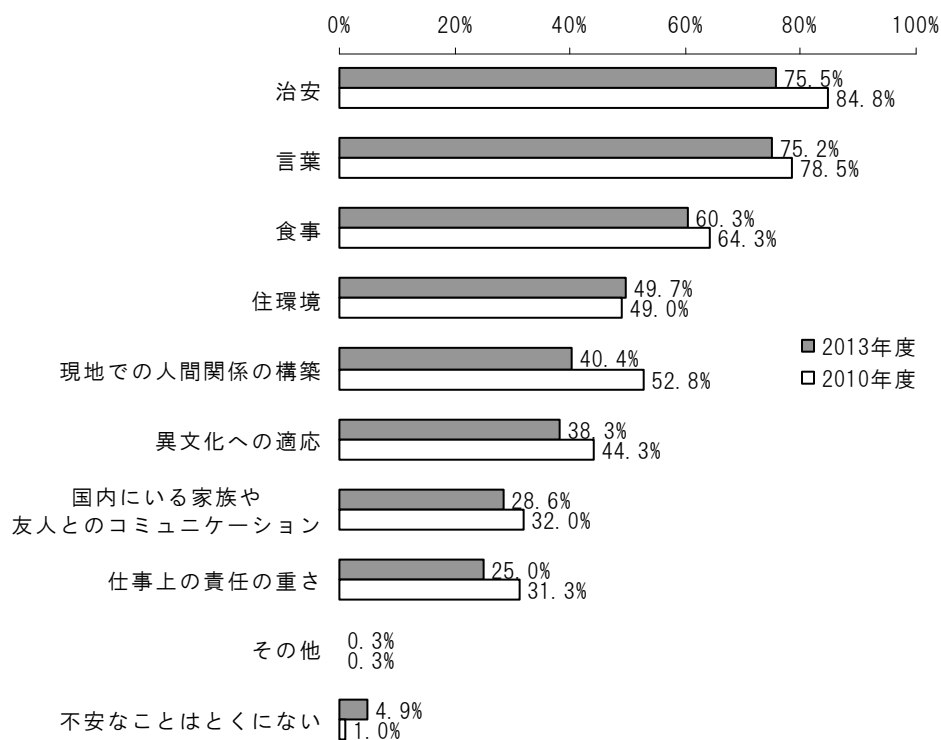
問 1 1. 海外勤務で不安なことはありますか。(複数回答)



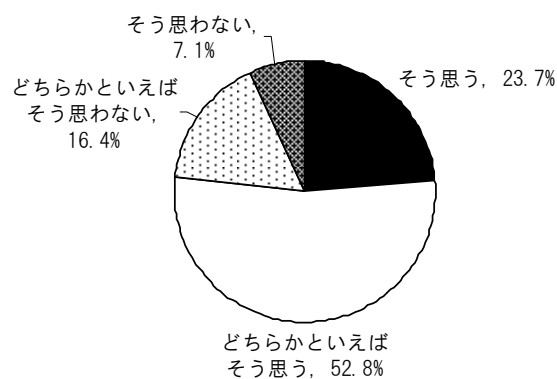
			治安	言葉	食事	住環境	現地での人間関係の構築
合計	N		599	596	478	394	320
	%		75.5%	75.2%	60.3%	49.7%	40.4%
性別	男性	N	269	280	212	171	131
		%	70.8%	73.7%	55.8%	45.0%	34.5%
	女性	N	330	316	266	223	189
		%	79.9%	76.5%	64.4%	54.0%	45.8%
海外留学の経験	ある	N	96	70	61	55	44
		%	70.1%	51.1%	44.5%	40.1%	32.1%
	ない	N	503	526	417	339	276
		%	76.7%	80.2%	63.6%	51.7%	42.1%
英語習得のレベル	英語は全くできない	N	165	182	144	120	91
		%	74.7%	82.4%	65.2%	54.3%	41.2%
	簡単な読み書きや会話ができる	N	276	284	217	173	147
		%	80.7%	83.0%	63.5%	50.6%	43.0%
	相手の意見を理解し、自分の意志を伝えることができる	N	135	116	102	86	74
		%	71.1%	61.1%	53.7%	45.3%	38.9%
	ビジネスにおける商談・交渉ができる	N	23	14	15	15	8
		%	57.5%	35.0%	37.5%	37.5%	20.0%
勤務先の事業の海外展開	取り組んでいる (計)	N	231	215	176	134	120
		%	76.5%	71.2%	58.3%	44.4%	39.7%
	取り組んでいない (計)	N	249	258	205	173	137
		%	76.4%	79.1%	62.9%	53.1%	42.0%

※「異文化への適応」以降は次ページ

			異文化への 適応	国内にいる家 族や友人との コミュニケー ション	仕事上の 責任の重 さ	不安なこ とはとく にない	その他	合計
合計		N	304	227	198	39	2	793
		%	38.3%	28.6%	25.0%	4.9%	0.3%	100.0%
性別	男性	N	135	90	77	28	0	380
		%	35.5%	23.7%	20.3%	7.4%	0.0%	100.0%
	女性	N	169	137	121	11	2	413
		%	40.9%	33.2%	29.3%	2.7%	0.5%	100.0%
海外留学 の経験	ある	N	35	38	36	14	1	137
		%	25.5%	27.7%	26.3%	10.2%	0.7%	100.0%
	ない	N	269	189	162	25	1	656
		%	41.0%	28.8%	24.7%	3.8%	0.2%	100.0%
英語習得 のレベル	英語は全くできない	N	99	72	71	11	0	221
		%	44.8%	32.6%	32.1%	5.0%	0.0%	100.0%
	簡単な読み書きや会話ができる	N	135	102	81	10	2	342
		%	39.5%	29.8%	23.7%	2.9%	0.6%	100.0%
	相手の意見を理解し、自分の意志を伝えることができる	N	63	44	39	14	0	190
		%	33.2%	23.2%	20.5%	7.4%	0.0%	100.0%
	ビジネスにおける商談・交渉ができる	N	7	9	7	4	0	40
		%	17.5%	22.5%	17.5%	10.0%	0.0%	100.0%
勤務先の 事業の海外展開	取り組んでいる（計）	N	95	79	72	15	1	302
		%	31.5%	26.2%	23.8%	5.0%	0.3%	100.0%
	取り組んでいない（計）	N	144	100	85	11	0	326
		%	44.2%	30.7%	26.1%	3.4%	0.0%	100.0%



問１２．あなたは今後、日本企業はグローバル化（海外進出）を一層進めるべきだと思いますか。

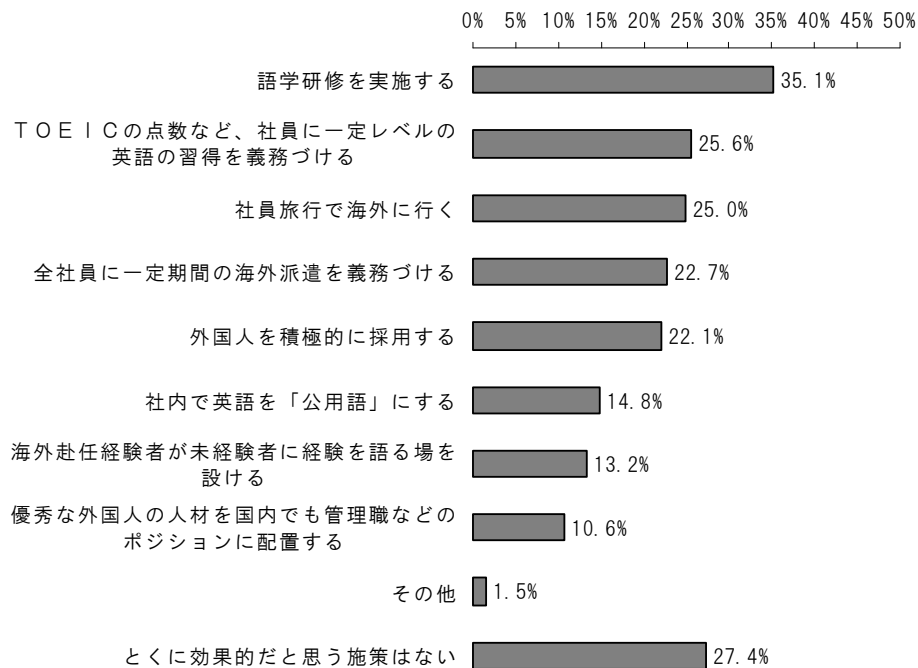


			そう思う	どちらかとい えばそう 思う	どちらかとい えばそう 思わない	そう思わな い	合計
合計		N	188	419	130	56	793
		%	23.7%	52.8%	16.4%	7.1%	100.0%
性別	男性	N	95	184	67	34	380
		%	25.0%	48.4%	17.6%	8.9%	100.0%
	女性	N	93	235	63	22	413
		%	22.5%	56.9%	15.3%	5.3%	100.0%
海外留学 の経験	ある	N	56	70	6	5	137
		%	40.9%	51.1%	4.4%	3.6%	100.0%
	ない	N	132	349	124	51	656
		%	20.1%	53.2%	18.9%	7.8%	100.0%
英語習得 のレベル	英語は全くできない	N	26	118	48	29	221
		%	11.8%	53.4%	21.7%	13.1%	100.0%
	簡単な読み書きや会話 ができる	N	81	191	52	18	342
		%	23.7%	55.8%	15.2%	5.3%	100.0%
	相手の意見を理解し、自分の意 志を伝えることができる	N	64	95	24	7	190
		%	33.7%	50.0%	12.6%	3.7%	100.0%
勤務先の 事業の海外展開	ビジネスにおける商 談・交渉ができる	N	17	15	6	2	40
		%	42.5%	37.5%	15.0%	5.0%	100.0%
	取り組んでいる（計）	N	113	162	24	3	302
		%	37.4%	53.6%	7.9%	1.0%	100.0%
	取り組んでいない（計）	N	61	175	61	29	326
		%	18.7%	53.7%	18.7%	8.9%	100.0%

問 13. 前問の回答理由を自由にお答えください。

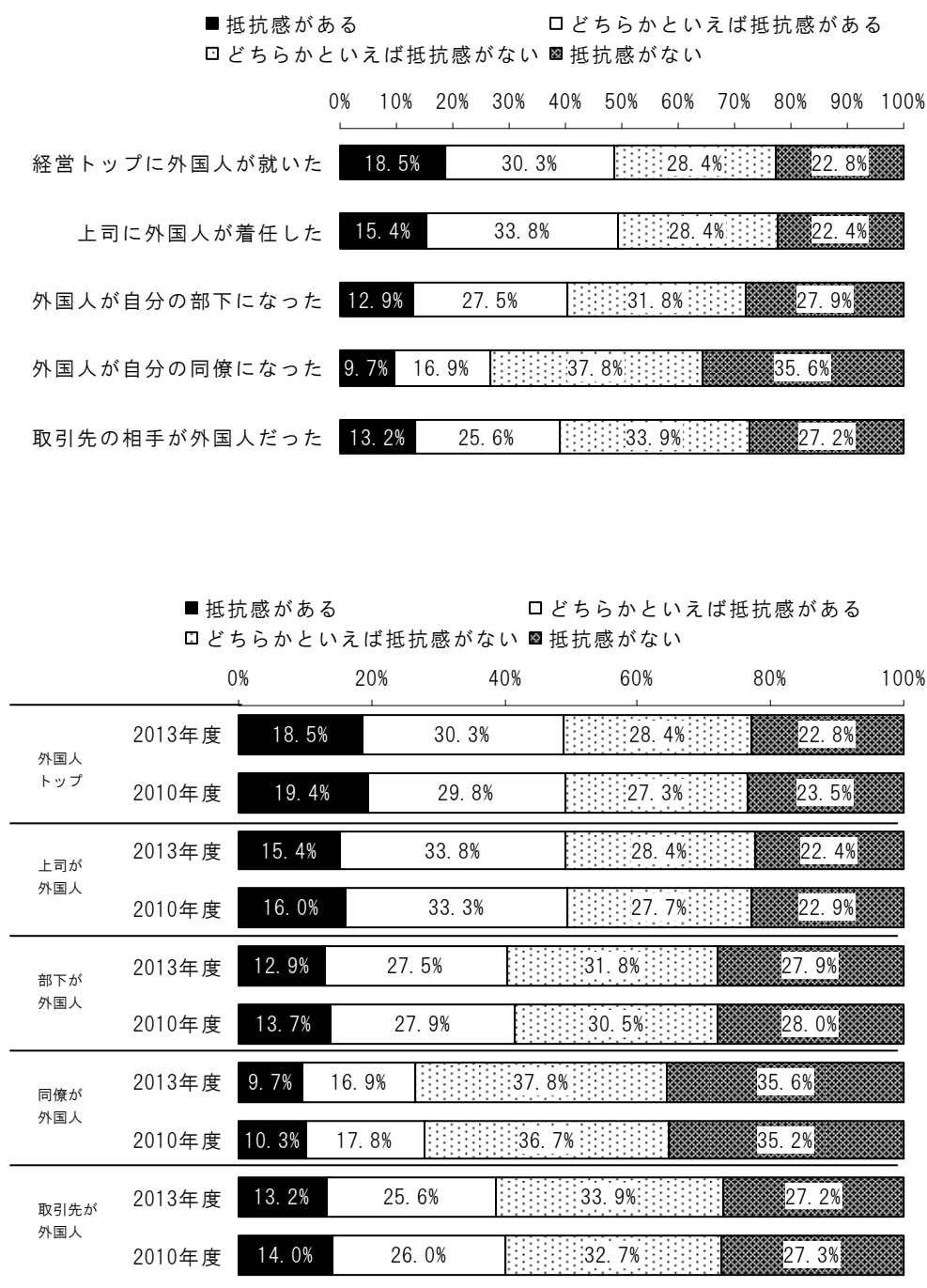
【そう思う（計）】	【そう思わない（計）】
・ さまざまな国が世界に進出してきているため、このままでは日本が後退していつてしまうから（女性／サービス業／東京） ・ 海外のよさをもっと取り入れることができるし、海外進出していくためには必要だと思うから（女性／卸売・小売業／岡山） ・ 国内の産業が衰退して、職場がなくなってしまうから（男性／サービス業／北海道） ・ 日本経済の規模を今後維持するためには、海外との取引は必須だと思うから（男性／電気通信業／東京） ・ 国内だけでとどまっても発展できないから（女性／教育・学習サービス／広島） ・ 日本の技術をもっと発信していくべきだと思うから（女性／医療・福祉／秋田） ・ ビジネス以外でもお互いに良いところを取り入れて発展できると思うから（女性／製造業／長野） ・ 日本だけにこだわっていて活躍の場を世界に広がていかないと、世界の市場に残されると思うから（女性／製造業／埼玉） ・ 現在の日本は世界に追いついていかななくてはいけない立場になってしまった（女性／不動産／埼玉） ・ 海外のインフラ整備などドル箱だと思うから（男性／製造業／愛知） ・ 人口減少など経済の成長性が低い中で、企業が成長するためには、市場の成長が見込める海外に目を向けるのが当然だと思うから（男性／製造業／愛知） ・ グローバル化が進んできたといっても、まだまだ閉鎖的だと思うから（女性／運輸業／千葉） ・ 日本の産業には海外企業にはないよいところがたくさんあるため、対等に渡り合えると思ったため（女性／情報サービス業／愛知） ・ 世界に、日本のことをより多く知ってもらうため（女性／土木・建設／東京） ・ いままでより大きく成長するためには、積極的に海外とコミュニケーションをとり、国内では得られない知識や経験を蓄積する必要があると考えるため（男性／情報サービス業／富山） ・ 国とか年齢とか性別とか関係無しに、仕事でもプライベートでも、いろいろな人とかかわるのが楽しいと思うから（女性／製造業／岩手） ・ いつまでも国内の守られた環境にいと、凝り固まった価値観しか身に付かない（男性／製造業／静岡） ・ 日本の会社・社会のルールは閉鎖的で、自分たちを苦しめていると思う（男性／卸売・小売業／群馬）	・ 日本の良さが失われるから（男性／情報サービス業／東京） ・ 海外進出ばかりでなくとも、国内での事業の発展を考えてほしいから（男性／卸売・小売業／埼玉） ・ 国内の競争力が落ちると思うから（女性／製造業／山口） ・ 海外展開は良いとは思いますが、品質もサービスも良質が提供されるような組織づくりを大事にすべきだと思う。進出先の方が水準が低い場合、それに合わせるべきではない（女性／サービス業／大分） ・ とりあえず国内産業を立て直す方が先だと思っているから（男性／サービス業／滋賀） ・ 積極的にグローバル化を推し進めると、日本らしさが失われてしまいそうだから（男性／情報サービス業／福岡） ・ 海外で働きたくないから（男性／電気・ガス／和歌山） ・ 日本の独自性がなくなり、どこの国でも同じになってしまい面白みに欠ける（女性／製造業／愛知） ・ 日本企業と国際社会の常識にかなりのズレがある。何十年経っても結局、合わない気がする（女性／卸売・小売業／和歌山） ・ グローバル化といっても閉鎖感が否めない。実際に上司が海外の人になるのは抵抗を感じざるを得ない（女性／不動産／東京） ・ なんでもかんでもグローバル化すればよいものではない（女性／卸売・小売業／東京） ・ 海外に有能な人が流れてしまえばかりいるのはどうかと思う（女性／サービス業／愛知） ・ 海外の状況によって、日本の方針などが揺らぐのはおかしいと思う（女性／卸売・小売業／北海道） ・ 将来の国内情勢すらわからないのに、海外情勢はよりわからず、不透明だから（男性／卸売・小売業／山口）

問 1 4. あなたは勤務先でどのような施策があると、現在よりも、社員が海外赴任に積極的になると思いますか。（複数選択）

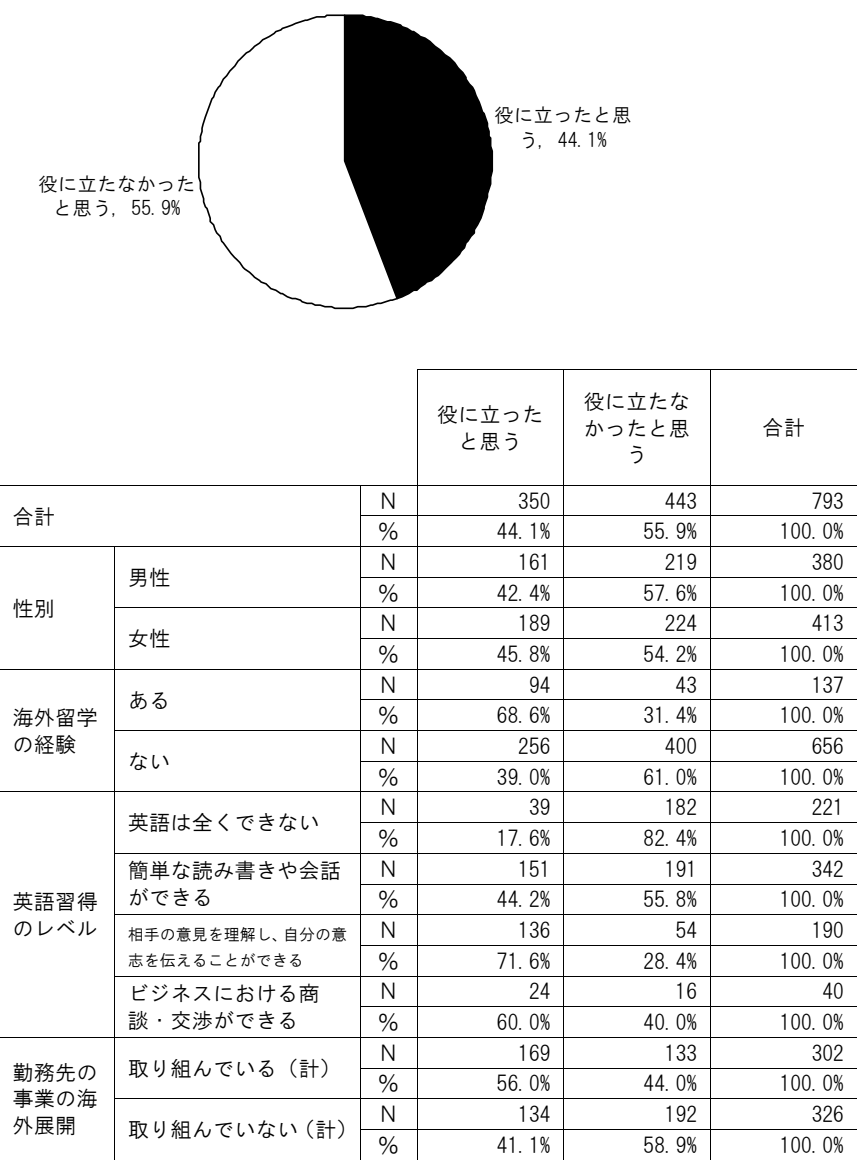


			語学研修を実施する	TOEICの点数など、社員に一定レベルの英語の習得を義務づける	社員旅行で海外に行く	全社員に一定期間の海外派遣を義務づける	外国人を積極的に採用する	社内で英語を「公用語」にする	海外赴任経験者が未経験者に経験を語る場を設ける	優秀な外国人の人材を国内でも管理職などのポジションに配置する	その他	とくに効果的だと思う施策はない	合計
合計		N	278	203	198	180	175	117	105	84	12	217	793
		%	35.1%	25.6%	25.0%	22.7%	22.1%	14.8%	13.2%	10.6%	1.5%	27.4%	100.0%
性別	男性	N	119	93	80	78	73	48	51	38	5	123	380
		%	31.3%	24.5%	21.1%	20.5%	19.2%	12.6%	13.4%	10.0%	1.3%	32.4%	100.0%
	女性	N	159	110	118	102	102	69	54	46	7	94	413
		%	38.5%	26.6%	28.6%	24.7%	24.7%	16.7%	13.1%	11.1%	1.7%	22.8%	100.0%
海外留学の経験	ある	N	62	47	37	41	43	36	22	29	3	19	137
		%	45.3%	34.3%	27.0%	29.9%	31.4%	26.3%	16.1%	21.2%	2.2%	13.9%	100.0%
	ない	N	216	156	161	139	132	81	83	55	9	198	656
		%	32.9%	23.8%	24.5%	21.2%	20.1%	12.3%	12.7%	8.4%	1.4%	30.2%	100.0%
英語習得のレベル	英語は全くできない	N	61	43	55	31	40	25	20	13	1	94	221
		%	27.6%	19.5%	24.9%	14.0%	18.1%	11.3%	9.0%	5.9%	0.5%	42.5%	100.0%
	簡単な読み書きや会話ができる	N	138	90	91	74	75	50	52	32	2	81	342
		%	40.4%	26.3%	26.6%	21.6%	21.9%	14.6%	15.2%	9.4%	0.6%	23.7%	100.0%
	相手の意見を理解し、自分の意志を伝えることができる	N	70	59	43	62	54	36	26	29	7	33	190
		%	36.8%	31.1%	22.6%	32.6%	28.4%	18.9%	13.7%	15.3%	3.7%	17.4%	100.0%
	ビジネスにおける商談・交渉ができる	N	9	11	9	13	6	6	7	10	2	9	40
		%	22.5%	27.5%	22.5%	32.5%	15.0%	15.0%	17.5%	25.0%	5.0%	22.5%	100.0%
勤務先の事業の海外展開	取り組んでいる（計）	N	134	99	92	97	78	56	58	34	3	43	302
		%	44.4%	32.8%	30.5%	32.1%	25.8%	18.5%	19.2%	11.3%	1.0%	14.2%	100.0%
	取り組んでいない（計）	N	107	71	78	65	75	41	33	41	9	102	326
		%	32.8%	21.8%	23.9%	19.9%	23.0%	12.6%	10.1%	12.6%	2.8%	31.3%	100.0%

問15. あなたは以下の状況が生じた（生じている）場合、抵抗を感じますか。



問 16. あなたは最終学歴までの学校における英語教育は役に立ったと思いますか。



問 17. 前問の回答理由をお答えください。

【役に立ったと思う】	【役に立たなかったと思う】
・ 留学などせずに、英語が十分使える状態になったから（女性／教育・学習サービス／広島） ・ イヤでも英語に触れられてよかったと思う（女性／製造業／埼玉） ・ 英語が好きになったきっかけと言えるから（男性／製造業／千葉） ・ ある程度の会話ができるようになり、旅行のときにも困らない（女性／不動産／埼玉） ・ 英語を読み書きするうえで、文法知識は欠かせないから（女性／製造業／大阪） ・ 大学で行った語学研修で、文法が確実に簡単な英語でも説明できていることを褒められたので、文法を中心に教えている学校の語学教育も少なからず役に立っていると思う（女性／運輸業／千葉） ・ 日本の学校教育では文法を非常に丁寧に教えてくれるが、これは幼児期に言語を身に付けるような方法で習得することができない以上、重要な屋台骨になると思う。実践的に習得するうえでは、文法の基礎は重要だと痛感する（男性／製造業／東京） ・ 基本的なことは学べたと思う（男性／製造業／福岡） ・ 基本を知っているため、まったくコミュニケーションがとれない、ということは避けられている（男性／製造業／神奈川） ・ 効果的だったかは定かではないが、間違いなく学校で学んだ教育の中では有用な科目の一つだと思う（男性／情報サービス業／埼玉） ・ 語学教育を行わなければその語学を体験することなく過ごしていったと思う。苦手でも知識として得たものは多かったと感じる（女性／サービス業／東京）	・ 使う機会がないうえに、話せるまで勉強できていないから（女性／金融・保険／京都） ・ 会話する能力が身に付かなかった（男性／卸売・小売業／埼玉） ・ 真面目に取り組まなかったから（男性／製造業／京都） ・ 学校の英語教育はペーパーテストのための語学だと思うから（男性／卸売・小売業／埼玉） ・ テストで点をとるための教育だったため、あまり身につけていない（女性／情報サービス／東京） ・ 実践できるレベルまで習得できていない（女性／サービス業／東京） ・ 実務で使う語学は、別物だと感じているため（男性／情報サービス業／埼玉） ・ 英語教師のレベルが十分ではないと思う（男性／情報サービス業／千葉） ・ 勉強はしてきたが、それらを活かす環境がほとんどなかったから（男性／サービス業／滋賀） ・ 会話の力を身に付けるためには、英語圏に身を置かなければならないと思うから（男性／金融・保険／大阪） ・ 「話す」という観点ではまったく役に立っていない（女性／教育・学習サービス／千葉） ・ なぜ学ばなければいけないのか理解できず、「学習」が「作業」になってしまっていたように思うから（男性／医療・福祉／長野） ・ ライティングが基本となっていて、リスニングやスピーキングが不足していたから（男性／卸売・小売業／新潟）

問 18. あなたは今後、学校教育での「グローバル人材」(※) 育成の取り組みを強化すべきだと思いますか。

※文部科学省では「グローバル人材」を以下のように定義しています

「世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、次世代までも視野に入れた社会貢献の意識などを持った人間」(「産学官によるグローバル人材育成のための戦略」産学連携によるグローバル人材育成推進会議、2011年4月)

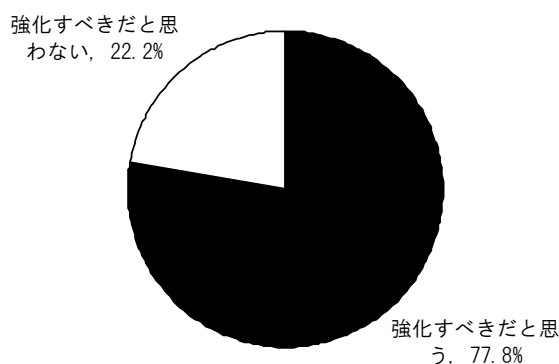
また、「グローバル人材」の概念を整理すると、概ね、以下のような要素が必要だとしています。

要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力

要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ

このほかに、幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークと(異質な者の集団をまとめる)リーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー等の必要性を挙げるなどしています。



			強化すべき だと思う	強化すべき だと思わない	合計
合計		N	617	176	793
		%	77.8%	22.2%	100.0%
性別	男性	N	287	93	380
		%	75.5%	24.5%	100.0%
	女性	N	330	83	413
		%	79.9%	20.1%	100.0%
海外留学の 経験	ある	N	118	19	137
		%	86.1%	13.9%	100.0%
	ない	N	499	157	656
		%	76.1%	23.9%	100.0%
英語習得の レベル	英語は全くできない	N	156	65	221
		%	70.6%	29.4%	100.0%
	簡単な読み書きや会話 ができる	N	268	74	342
		%	78.4%	21.6%	100.0%
	相手の意見を理解し、自分の意 志を伝えることができる	N	161	29	190
		%	84.7%	15.3%	100.0%
勤務先の事業の海外展 開	取り組んでいる(計)	N	265	37	302
		%	87.7%	12.3%	100.0%
	取り組んでいない(計)	N	240	86	326
		%	73.6%	26.4%	100.0%

問 19. 前問の回答理由をお答えください。

【強化すべきだと思う】	【強化すべきだと思わない】
・ いまの子どもたちが大人になったときには、ますますグローバル化が進んでいると思うから（女性／教育・学習サービス／和歌山） ・ 今後、間違いなく海外市場が重要になり、会社においてもグローバル人材が必要となるから（女性／金融・保険／京都） ・ 企業や社会がグローバル化の方向に向かっているから、教育もあわせる方がよいと思う（男性／製造業／神奈川） ・ これからは世界を相手にビジネスしていくことになると思うから（女性／製造業／滋賀） ・ 海外の人と働く機会が増える以上、相手のことを理解して仕事を出来る人を増やさなければいけないと思うから（男性／製造業／東京） ・ 他国では海外を視野に入れた教育をしているのに、日本が行わなければ、将来、相対的に不利な立場になってしまうそうだから（男性／製造業／愛知） ・ 外国を「知らない」だけで嫌悪するのは、単純にもったいないと思う（男性／サービス業／男性） ・ 会社に入ってから学ぶのでは手遅れだと思う（女性／卸売・小売業／愛知） ・ 外国の方とコミュニケーションを取ること自体に不安を感じるのはいいこととは思えないから（女性／卸売・小売業／島根） ・ 色々な文化を知ること、日本を再発見することにもつながるから（男性／金融・保険／神奈川） ・ 異文化に触れることで日本の良さを再認識できるし、外国人と話すことで、より正確に自分の考えを伝える力が身に付くと思うから（男性／電気通信業／東京） ・ 日本とは違う考え方、違うものに触れることは楽しいことだと思うので、ぜひとも教育の場で、色々な機会を与えられるべきだと思う（女性／製造業／岩手） ・ 国内だけでなく、海外で働くことも選択肢になるから（男性／卸売・小売業／愛知） ・ 今後社会に出て行くときに、外国人と接する機会はあると思う。そのようなときに抵抗感なく接するために、学校教育の時点から取り組みが必要だと思う（女性／製造業／山口） ・ 海外で働くことに対する抵抗をなくしていく必要があると思うから（女性／サービス業／大阪） ・ 国内だけにとどまっているにはもったいないほどの技術が日本にはあると思う（女性／教育・学習サービス／新潟） ・ 言葉が話せないというだけで、国内にとどまる優秀な人材が多いと思うので、教育でテコ入れしてほしい（男性／製造業／静岡）	・ グローバル人材＝英語ができるといった社会通念があるため（男性／情報サービス業／東京） ・ 強制的に教育しなくても、必要と感じる人が取り組むことのできる環境を整える方がよい。必要と感じない人まで、無理やり教育しなくてもよいのでは（女性／卸売・小売業／東京） ・ 学校生活と社会生活は大きく異なり、教育ですべてできると思わないから（男性／サービス業／東京） ・ 教育に力を入れたところで、「なりたい自分」が固まらないことには勉強しないと思う（男性／情報サービス業／栃木） ・ やりたい人が自らの意思でやるべきだと思う（男性／製造業／京都） ・ 義務化するべきことなのか（女性／卸売・小売業／石川） ・ 莫大なコストをかけて全員に行うよりも、一部の希望がある者に対して行えば十分であり、その方が圧倒的に費用対効果が優れていると思うから（男性／製造業／東京） ・ 海外に夢を見すぎ（男性／製造業／富山） ・ そもそも日本語が十分にできていない。海外のことよりも自国のことをよく理解し、自分の言葉をよく理解すべきではないか（女性／不動産／東京） ・ まずは母国語をきちんと理解すべきだと思う（男性／医療・福祉／宮城） ・ 強化することはよいとは思いますが、やったところでどの程度まじめに学ぶのかを考えると、いまと変わらないかもしれない（男性／製造業／富山） ・ 学校教育には限界があり、成果がそれほど出るとは思えないから（男性／製造業／新潟） ・ まずは日本をしっかりと学ぶべきだと思う。いまの段階でグローバル化しても、単なる外国かぶれみたいになるだけだと思う（女性／医療・福祉／福岡） ・ 教育だけではどうにもならないと思う（男性／サービス業／愛知）

第5回
新入社員のグローバル意識調査

2013年7月

学校法人産業能率大学
〒158-8630 東京都世田谷区等々力 6-39-15
TEL : 03-3704-9040
(企画広報部企画広報課)
